

## 第 5 章 形（投の形）

### 【正誤式】(○か×で回答)

1. 投の形は講道館創設当初、乱取の形として制定された。
2. 投の形は手技・腰技の 2 分類のみで構成されている。
3. 投の形では各技を右・左の両方で練習する。
4. 浮落は手技に分類される。
5. 背負投は足技に分類される。
6. 肩車は手技の代表技の一つである。
7. 浮腰は腰技に分類される。
8. 払腰は真捨身技に分類される。
9. 釣込腰は腰技に分類される。
10. 送足払は足技に分類される。
11. 支釣込足は足技に分類される。
12. 内股は横捨身技に分類される。
13. 投の形の技は各分類から 3 本ずつ選ばれて構成されている。
14. 投の形は乱取の投技を理解するために作られた。
15. 投の形では受け方の練習は行わない。
16. 投の形の練習では崩し、作り、掛けを学ぶ。
17. 手技・腰技・足技は投技の大分類である。
18. 投の形は乱取を補完するための形である。
19. 投の形は乱取の形として明治 17、18 年頃に制定された。
20. 技の左右両側を行うことで体のバランスも養われる。
21. 投の形には浮落は含まれない。
22. 投の形は技の理合を体得することを目的としている。

**【正誤式:解答】**

- 1.○
- 2.×
- 3.○
- 4.○
- 5.×
- 6.○
- 7.○
- 8.×
- 9.○
- 10.○
- 11.○
- 12.×
- 13.○
- 14.○
- 15.×
- 16.○
- 17.○
- 18.○
- 19.○
- 20.○
- 21.×
- 22.○

## 【穴埋め式】

1. 投の形は乱取の形として講道館創設当初、( )に制定された。  
A 明治 17-18 年頃 / B 大正期 / C 昭和初期
2. 投の形は乱取に用いる( )の理合を理解するために作られた。  
A 受身 / B 投技 / C 当身
3. 投の形は手技・腰技・足技・真捨身技・( )から構成される。  
A 補助技 / B 横捨身技 / C 当身技
4. 手技には浮落・背負投・( )が含まれる。  
A 大外刈 / B 肩車 / C 小内刈
5. 腰技には浮腰・払腰・( )がある。  
A 隅返 / B 釣込腰 / C 送足払
6. 足技には送足払・支釣込足・( )がある。  
A 浮技 / B 浮落 / C 内股
7. 投の形は各技を( )で練習する。  
A 左技のみ / B 右・左双方 / C 右技のみ
8. 技の習得では崩し・作り・( )を学ぶ。  
A 受身 / B 掛け / C 体当たり
9. 投の形は乱取の( )として制定された。  
A 終了動作 / B 補助運動 / C 形
10. 浮落は( )に分類される。  
A 腰技 / B 手技 / C 足技
11. 背負投は( )に分類される。  
A 足技 / B 腰技 / C 手技
12. 肩車は( )に分類される。  
A 横捨身技 / B 手技 / C 真捨身技
13. 払腰は( )に分類される。  
A 手技 / B 腰技 / C 足技
14. 釣込腰は( )に分類される。  
A 足技 / B 腰技 / C 真捨身技
15. 支釣込足は( )に分類される。  
A 横捨身技 / B 足技 / C 腰技
16. 投の形の各分類は代表的な技を( )ずつ選んで構成される。  
A 5 本 / B 2 本 / C 3 本
17. 投の形の目的は技の理合を( )することである。  
A 分解 / B 理解・体得 / C 省略
18. 送足払は( )である。  
A 手技 / B 足技 / C 腰技
19. 投の形の練習は( )ために行う。  
A 礼法の習得 / B 体力向上のみ / C 技の基本を身につける
20. 投の形は乱取で投技を活かすための( )である。  
A 応用 / B 基礎 / C 競技

## 【穴埋め式:解答】

1.A

2.B

3.B

4.B

5.B

6.C

7.B

8.B

9.C

10.B

11.C

12.B

13.B

14.B

15.B

16.C

17.B

18.B

19.C

20.B